



## 総題 私たちの神

アドベンチスト聴覚しょうがい者友の会教材部

第 5 課 神は聖なる方 磯部豊喜 2012, 1, 28～2012, 2, 3

### 1. はじめに

今期のSS聖書研究ガイドの総題は、「私たちの神」です。私たちはこの13週の間、この壮大なテーマを学んでいます。「私たちの神」はどんなお方なのでしょうか。あなたは、もし誰かが「あなたの信じる神様はどんな方ですか？」と尋ねられたならば何とお答えになれるでしょうか。聖書から神様とそうでないものを区別するいくつかの特別な性質があります。第一に神は永遠の（始まりも終りもない）お方です。第二に神は全能（なんでも出来ないことはない）です。第三に神は全知（なんでも知っている）、第四に神は遍在（どこにでもおられる）、そして第五に神は不変（心がころころと変わることはない）であると紹介することが出来るでしょう。しかし、神様を誰かに紹介するとき、何よりも魅力的なのはその道徳性です。「愛、義、聖」がそれです。神様と言えば「愛」です。また「義」です。そして「聖」です。今週は、この「聖なる方」について深く学ぶこととなります。

### 2. 「……と書いてある」 1月29日（日曜日）

聖書の世界に触れていきますと、まず出会う言葉、その一つが「聖」という言葉でしょう。まず私たちが手にとっている本の名からしてそうです。「聖書」「聖徒」「聖都エルサレム」「聖日」…と続きます。「聖書」は英語では「ホーリー（聖）バイブル（書物）」と呼ばれます。つまり「聖なる本」という意味です。「聖」がつくことによって聖書と他の本の違いが表されているのです。

神の子イエス様は、旧約聖書を用いられましたが、旧約聖書の言葉が「聖なる神様の言葉である」ことを、その信仰によって証しされました。「（聖書に）…と書いてある」「聖書には何と書いてあるか、あなたはどうか読むか」という言葉をお語りになられて、当たり前のように「聖書」が神様のものであると表明されました。このような「聖書」だとするならば、私たちはもっともっと聖書を大事にする必要があると思います。私は「聖書」の上に物を置かない習慣があります。しかしそういうことよりも大切なことは、聖書の言葉に触れ続けることではないかと思います。「聖書は聖なる神様の本」だからといって本棚にいつまでも飾っておくものではありません。積読聖書だとか、パンフークリスチャンだとかいう言葉があります。積読は聖書を大切に本棚に保管して読まないことを指します。またパンフークリスチャンは、久しぶりに開いて聖書をパンと閉じたら、長いこと読んでなかった証として埃が舞うので、「フー」と吹くクリスチャンのことを指します。あなたの聖書は、どのように扱われているでしょうか。

### 3. 区別されること 1月30日（月曜日）

聖書の中で、はじめて「聖」の言葉がでてくるところを注意して見てみましょう。それは創世記2：3にそれがでてきます。「【新共同訳】この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なされたので、第七の日を神は祝福し、聖別された。」【口語訳】神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終わって休まれたからである。」と記された聖句が「聖」がでてくる最初です。第七日安息日が「聖別」された日と呼ばれています。

ここで分かる事は、神様はこの日を他の日と明らかに区別されたということです。私たちゼブンスデー・アドベンチストの大切にしている安息日を守る根拠（よりどころ）がこの聖句に見られます。安息日は「聖日」（イザヤ 58:13）です。すなわち、神様が特別に区別された日です。とはいうものの本来、私たちの神様はすべての日のつくり主です。ですから毎日、神様を礼拝し、神様とお交わりすることは可能です。しかし安息日という聖日は、特別です。たとえとしてふさわしいかどうか分かりませんが、週の6日間、私たちは生活のためにいろいろなことをしなければならないので時間をかけて神様と深く交われません。しかし、安息日だけはイエス様ご自身が第7日目の24時間に限り「私とタツプリとデートしましょう」と区別してくださっているという、そのように神様が約束しておられる、これが安息日だと意識することです。そうであれば、安息日を忘れて、デートをすっぽかすのは勿体ないし、イエス様に待ちぼうけをさせてしまうと、申し訳ないことになってしまいます。「聖」は「区別」されることです。神様がそのように「宣言」されたのです。「聖」がつくことによってそれは、どんなものも特別なものになります。クリスチャンも「聖徒」だと聖書では表現されています。これも「神様のために区別された徒（弟子）」となります。とても身が引き締まる思いがしますね。さほど清らかで完全な者でもないのに、神様は「聖徒」と私たちを呼んでくださるのです。ありがたいことです。

#### 4. 塵と灰の中で悔い改める 1月31日（火曜日）

「聖」なる神様に、触れると人はどうなるのでしょうか。その経験が、このところにまとめられています。ヨブの場合「それゆえ、わたしは塵と灰の上に伏し／自分を退け、悔い改めます。」（ヨブ42:6）、ヤコブの場合「そして、恐れおののいて言った。「ここは、なんと畏れ多い場所だろう。これはまさしく神の家である。そうだ、ここは天の門だ。」（創28:17）、ダニエルの場合「わたしはひとり残ってその壮大な幻を眺めていたが、力が抜けていき、姿は変わり果てて打ちのめされ、氣力を失ってしまった。」（ダニエル10:8）と語っています。彼らのように悔い改めた罪人は、神様の「聖」を前にすると、恐れ、震え、ひれ伏すのです。

#### 5. 私から離れてください！ 2月1日（水曜日）

ペテロがイエス様の「聖」に触れたときの様子がここに記されています。彼も「これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」（ルカ5:8）と言いました。罪人は神様の前に平静で立つことの出来る人は恐らくいないでしょう。しかしそれでも私たちは、畏れつつも神様のみ前に立つことが許されます。罪人にとって「聖」なる神様は、本来怖いものですが、その罪深い私たちが恐れが取り除かれて、「聖」なる神様の前に立たせていただけるのが神の恵みです。

#### 6. 悪霊が話すとき 2月2日（木曜日）

ルカ4:31~36には、悪霊につかれた人が、キリストに出会ったときに話した言葉が記されています。「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ」（ルカ4:34）。この言葉によれば、悪霊もイエス様がどんなお方なのか分かっているようです。では悪霊とクリスチャンの違いは何でしょうか。ヤコブの手紙には「悪霊どもでさえ、信じておののいている」（ヤコブ2:19）とあります。悪霊はイエス様が「聖」なる方であることを認めています。しかし礼拝しない。しかしクリスチャンは神様の「聖」を認め、畏れつつも、神様に近づき、聖なる神様を讃えて、心から礼拝するのです。